



個別支援計画

本人の希望は、担任や保護者が聞き取ったり、本人の思いを想像したりして書きます。聞き取りや想像が難しい場合は、保護者の願いだけでも結構です。

支援機関・記入者

本人や保護者の希望や願いを踏まえて、支援の方針を立てます。

本人・保護者の希望・願い

- ・ 友だちをたくさんつくりたい (本人)
- ・ 困ったときに相談できる場所がほしい (保護者)
- ・ 趣味など余暇を楽しめることを見つけてほしい (保護者)

支援機関の意見

- ・ 人と関わりながら成功体験を重ね、自信を付ける。
- ・ 本人が取り組みやすいよう条件整備をする。

課題の解決に活用できそうなこと(よさ・できること)

- ・ 決められたスケジュールを守り、規則正しく生活できる。
- ・ 計算や漢字の書き取りが得意である。
- ・ 気の合う友だちと遊ぶことが増えた。

取り組むべき課題・取り組めそうな課題(気になること)

- ・ 慣れるまで時間がかかる。
- ・ 予定が変わると切り替えが難しい。
- ・ やりたいことができないとイライラする。
- ・ 忘れ物が多く、忘れたらそのことで頭がいっぱいになってしまう。

様式6を作成している場合は、その中から、主なものを抜き出します。

長期目標: 年後を見通した目標

- ・ わからないときや困ったときに、人に助けを求められるようになる。

めざす子ども像を書きます。

短期目標: 月内の達成目標

- ・ 集団の中でも指示や説明を聞けるようになる。
- ・ 忘れ物をなくする。

めざす子ども像に迫るために、当面取り組むことを書きます。

本人への働きかけ

- ・ 「だれが、何を、どうした表」を活用し、指示や簡単な説明を理解できるようにする。
- ・ 忘れ物をしたときは、授業が始まる前に先生に言うようにする。
- ・ 登校時に担任が1日の流れと持ち物を確認する。

本人へ働きかける際の手立てを書きます。

支援の手立て

- ・ 次の日の準備をする時間を決め、母と一緒に学級便りの時間割を見ながら準備をする。
- ・ 指示や説明の際は、できるだけ視覚的情報を併用する。
- ・ 気の合う友だちが班に入るように配慮する

本人が取り組みやすいように周りが条件を整えてあげることを書きます。

環境調整の工夫

成果

取り組んでみてどうだったか(評価日: 年 月 日)

課題

- ・ 上記の手立てを教職員が共通理解を図り、一貫した支援をすることで、大声を上げたり、物に当たったりすることが少なくなった。
- ・ 学級の子どもも教師の接し方(支援)を真似するようになってきた。

- ・ 休みの日は、テレビやゲームをして過ごすことが多く、余暇の使い方は課題である。